

## ドイツのギムナジウムにおける歴史教育の一例： 「近・現代」を教科書にみる

川崎医科大学 外国語教室

永末和子

(平成17年11月5日受理)

Eine Betrachtung über die Geschichte-Erziehung am Gymnasium in der neuen, reformierten BRD – Durch die Analysierung des konkreten Lehrbuchs in der modernen und gegenwärtigen Geschichte zeigt sich einige Hinweise auf die japanische historische Erziehung

Kazuko NAGASUE

*Department of Foreign Languages, Kawasaki Medical School,  
577 Matsushima, Kurashiki, Okayama, 701-0192, Japan  
(Received on November 5, 2005)*

### 概 要

ドイツの教育制度が日本と異なることは言うまでもない。従って、教育制度そのものをここで採り上げることはしない。本論の主旨は現代のドイツの高校生の受ける歴史教育の一端を具体的な歴史教科書を例にとることによって知ることにある。

教科書の特徴を大まかに言えば、編年体でも、紀伝体でもなく、またその折衷の紀事本末体でもない、どこまでも学習者に、自国とは何か、また、いかなる自国を建設するのがよいのかを自己判断させる十分な材料を提供し、それらを通じて自国の歴史を批判すべきは逃さず、正面から対決させ、建設に備えさせる意図のもと揺るぎ無く、且つ粘り強く構成してゆく。

論を進める上で必然的に日本の歴史教育の特異性が明らかとなり、また、英語の浸透により既に二重言語生活に入りつつあるヨーロッパを瞥見するとき、ドイツの歴史教育がなし得るであろう母国語保持の機能という副次的効果の重大性を、日本への示唆として受け留める。

本稿は翻訳作業から生まれたものである。従って、参考資料はないのだが、完成した段階で次の関係資料となるであろう著書を『思想』2005年第11号の裏表紙に発見した。後に関係資料として掲載するが、『ドイツの政治教育』と題するものである。そこにはこう記されている。——国家のための公民教育から、生徒の「批判的判断能力」を涵養する政治教育へ、現代ドイツの模索は、日本の社会科教育にも示唆を与える。キーワード：教科書にみるギムナジウムの歴史教育

### I. 教科書選定に関する特徴

ドイツは各州にいわゆる文部省があり、各々独自の教育政策を行っている。歴史教科書に例をとると、州の文部省が教育の目的・水準に適い、且つ第三者の審査を経て学術的に誤りがな

いとしたものを「使用してもよい教科書」として認可する。教師は使用教科書を選択するが、事実上は同じ学校の教師の協議に拠って実際に使用する教科書の決定がなされる。結果、ドイツ国の歴史教育は多様であると結論できる。本稿で対象とする教科書はベルリン・ブランデンブルク州のギムナジウムで採用されている教科書である。

たまたま今回、世界の高校歴史教科書を翻訳し紹介する企画に関係しているが、おしなべて言えることは、圧倒的量の多さである（既に市販に供されているポーランドの高校歴史教科書は現代史のみで900ページの量を有す）。我々の現在の仕事は取り敢えず「第8章 ナショナリズムとリベラリズム ドイツの《長い》19世紀」（原書296頁）から「第12章 ヨーロッパと世界：20世紀の道程と構造」（原書本文633頁）までの翻訳である。恐らく和文にして660頁余の仕上がりになるのではないと思われる。編集方針は現在の段階ではこの枠内であるが、「第7章 19世紀及び20世紀のロシア：国家と社会」（224頁～295頁）は、第一次世界大戦後の戦後処理が対共産主義防衛線としてドイツの国（ワイマール共和国）としての存続が必要であった間の事情を十分に理解させる上で関連の深い、ヨーロッパにとっては重要な事項であるので抜き難いところであるのだが、これを追加すれば分量としてはポーランドの歴史のそれを遙かに上回る頁数となる。

話がわき道にそれたが、確かに、この教科書をもってドイツの高校時における歴史教育を代表させるわけには行かないまでも、ほぼ似通った分量ほどがドイツのギムナジウム（大学進学コースの小学校高学年から高等学校までの一貫教育がなされる学校制度）の歴史教育では教科書として提供されていると考えてよいし、また、ヨーロッパにおいても同様の量の歴史上の知識を教授する教科書が選定されていると考えてよい。

日本の場合を簡単に振り返っておくと、山川出版社の歴史教科書が全国の80%を超える高校で採用され、高校歴史教科書として権威をもって迎えられている。私自身もこの出版社の教科書で学び、何の疑問も差し挟まず、普通の高校生並の知識を得た。恐らく、今回この企画に携わらなければ、一生何の疑問も抱かなかつたであろうことは誓って断言できる。要約すれば、同一教科書による教育が日本では実施され続けている。一面、〈教育する側、される側〉双方の安心感のなかにあるともいえる。しかし、考えようによっては山川出版社の責任は異例なほど大きく、測り知れない。なぜなら日本国民の80%が同じ歴史観を受け継ぐという壮大な実験のなかにおかれていることを意味するからである。ドイツは各州によって認可される教科書が異なることを人々は当然のこととして受け止め、多様であることに慣れ、むしろ普通と考えている。日本はひとまず一様であることが互いの前提事項として確認され、然る後に例外が少数存在するというのを容認するという様式が定着している。この事態を人々は素直に受け入れ、なんら不審感もなく、むしろ安心感を抱いている。

## II. 歴史教科書の編集・構成上から生じる日本の高校歴史教科書への提言

日本の歴史教科書は山川出版社を例にとると頁数は一冊、一応ほぼ480頁程度近くで納まる。

これは実に驚異である。ポーランドの現代史が900頁、ドイツのそれが660頁余これにロシア史の章を加えれば、優に1000頁を越す。日本の歴史教育には外国に比べ著しい特徴がある。つまり日本史と世界史に分たれているという特異性を有す。二本立て形式がいつから始まり、いかなる理由に基づくものか、歴史教科書成立史に委ねるほかないが、今はこの二つに分けられていることにより、現になにが行われているかを見る。いわずと知れた大学入試における日本史と世界史の二本立て試験である。いずれが原因であり、結果であるか判然としないが、受験生としては少々ありがたい。仮にこの「日本史」と「世界史」を単純に足し合わせたとする。それでも頁数は960頁である。これでは諸外国の18世紀から以降の教科書の分量に匹敵するに過ぎない。

ともあれ、今回のドイツの高校歴史教科書の翻訳作業は「世界の高校歴史教科書」を俯瞰するという目的でなされる事業の一環であるが、先にも触れたように、これら各国の歴史教科書は自国史といわゆる世界史とが一体となっており、分離されることがない。確かにヨーロッパは古くから互いに交錯する歴史を抱える。しかし、このことはもっと重大な事柄を孕んではいすまいか。私自身もこの出版社の教科書で学び、何の疑問も差し挟まず、普通の高校生並の知識を得たことは既に述べた。であるが故に、次に述べる個人的な反応が日本人全般に共通するといえるであろう。即ち、この企画に関係する1月前、トルコ人留学生が私の講座で「日本人は日本史と世界史を二つ学ぶが、私たちトルコ人は自国の歴史を学ぶこと、即世界史を学ぶことである」と話したとき、私はかのオスマントルコ帝国の広大な領土と繁栄を思い描いたに過ぎなかった。しかし、それだけのことであろうか、つまりトルコはかつて世界制覇を成し遂げた世界民の歴史をもつが、日本はそうではないと言い切って一切を捨象してしまってよい問題であろうか。また、岡山市内を流れる旭川ほどの隔たりでアジアとヨーロッパが袖すり合わせている国トルコはすでにアジアではなく、ヨーロッパであると言い放って、片付けてしまってよい問題であろうか。第7章でロシアの近代史を掲載し、しかも70頁余を割いていることに注目する必要があるように思う。

日本史と世界史を分けて教育することを誰がどういう考えの下、このように決定し、そのときから今日までいささかも奇異な感に捉われることなく踏襲してきたのであろうか。

大学入学試験を考えると、分かれてどちらか一方で受験できることはこれほどありがたいことはない。しかし、世界では歴史教育はそうではないらしいことがはっきりとした現在、もう少し考えてみることも必要ではあるまいか。大学入試にとって都合よいということが歴史教育において教育されるべきことを差し置いても重要なことであるのであろうか。もし万一人の世界像に何らかの矮小さを生じさせているかもしれない事柄が、すでにそのことを問うてみることもさえないもよらぬほど、我々が慣れ親しんでいるのだとしたら、これはかなり重要且つ緊急を要する問題である。いったい誰がその眠りから醒めさせてくれるのであろうか。

いや、そもそもドイツの高校歴史教科書で教育されたものは、そもそも誰が目覚めさせてくれるのかと問の抜けた質問を投げかけはすまい。彼らにはわかっているのである。分かるよう

に教育しているのである。彼らの教育に懸ける信頼は大きく、大胆に期待してゆく。このことを後に実例を引く段階で我々は、歴史教育を通じてなにをドイツ人が自国の将来の市民たちに期待し、要請しているのかを歴然と目にする。前もってということになるが、私たち日本人にはそれができないのであろうか。私たちは自分たちが行う教育にそれほどささやかな信頼を抱くに過ぎないのだろうか。そして私たちの若い国民たちはそれほど無能なのであろうか。私たち大人は彼らに期待できないのであろうか。

では、日本は世界から孤立した歴史を営んできたのであろうか。古墳、正倉院の御物、仏像、無形の仏教文明と際立ったところを列挙するもよい。だが、しかし、例えば九州の辺境の地にさえ、歴史が痕跡を遺している事態に直面する。福岡県の筑豊の地に鏡山という小山がある。峠を越えれば後は豊後水道に続く遠浅の刈田に出る。そこからは船路が始まり、一挙に都と結ぶ。鏡山は日本に3箇所あり、領巾振山ひれふりの異称をもつ。田川の鏡山の麓に小さな古墳があり、呉姫の墓と人々は呼ぶ。呉の国から渡来した娘の墓である。朝鮮からやってきた職能集団はこの峠に立ち、故郷の地に背を向け、新たなる土地、都へと臨む。分岐点の峠には越えて行った者たちの絶ち難い望郷の念がこもる。一方、唐津にある鏡山、領巾振山は防人の別離の山である。新羅征伐に赴く大伴狭手彦を想い、松浦佐用姫は船出を見霧るかす峠から、領巾を振り続け、やがて涙涸れ果て、娘は石となった。歴史の一こまは土地の人に語り継がれる。ことほどさように日本史は外国との往来のなかに育まれていった。

確かに日本史には徳川時代という鎖国時代が存在する。しかし、それが世界史と日本史を分ける理由とはならないであろう。その直前までの日本はどうであったか、戦国大名たちは海外に目を向けた。東北の地の伊達政宗は支倉常長をスペインに、ローマに通商貿易を求めて派遣し、キリシタン大名はバテレンを擁護した。それに続くキリシタン弾圧と世界と日本は濃く交わった。平和裏の通商貿易による文化交流は茶道をたしなむ人々にルソン・アンナンからの品々を賞玩することを教え、今日に及び、ひとつの美意識を生んだ。千利休以前の茶、代表例の書院の茶は、唐物と墨蹟しつこんを飾り立て、荘厳式に室内を飾り立て、盛んな交易の成果が生きた姿として人々の目は異国文化を享受した。会所の茶の接待を見れば、さらに幅広い層に到来の文化が分かれたれ、建築様式にもひとつの型を生んだ。こうしてみると私たちの文化史はもっと生き生きしてきはすまいか。到来文化の証言者、高松塚古墳や正倉院ばかりが外国との交流を物語って聞かせるものでもあるまい。キリシタン大名たちの海外へのまなごしをもう一度身近に引き寄せ、重ね合わせることができれば、彼らの通商に対する期待に満ちたまなごしを取り戻せば目も開け、徳川時代の三百年はつかの間である。大分県出身の作家・野上彌生子は晩年、故郷の臼杵を、潮流に乗って自然に到来した異国の文化を語り、バテレンたちが臼杵の港に呼び込まれたこと、大伴宗麟が彼らの庇護者となることにより、幕末にはすでに英語を教える人がいたと語る。目を留めさえすれば、歴史の教科書に記載されないもうひとつの生きた歴史が現れる。そこからおのずと生じてくる世界像は日本史の枠に留まらない。そして、学ぶ若者は世界の中の自国を認識する。ドイツの歴史教科書は実にこの埋もれた証拠を資料として語った

本人のものを、つまり一次文献を掲載するのである。

この〈世界の教科書シリーズ 12〉「ポーランドの高校歴史教科書」<sup>1)</sup>の著者、アンジェイ・ガルリツキは現代史60年間、詳しくは1939年から2001年までの歴史を描きながら、最も困難だったことは、ポーランド史をヨーロッパ史や世界史の中で位置づけることであったと「序」で述べる。しかし、やりぬいたのである。歴史という生動する様態のなかで描くのであるから、困難は計り知れない。にもかかわらずかの人々は敢行し、なぜ、日本ではしないのだろうかの疑問は付き纏う。私はこのドイツのギムナジウムの歴史教科書を翻訳しながら、歴史教育がひとつの Politik であることを教科書の執筆者、またそれを認可するものの間にも、言い換えれば国民総意のもと Politik であることは十分認識され、自国の将来像を方向付けるという意志の下、断行していることを見る。それらは政治家たちのメッセージ、また誤った政策内容、そこでなされた謀略までが資料として掲載されるのである。第二次世界大戦におけるドイツの場合は殊にそうならざるをえないのだが、歴史教育は自国内に留まらず、それは外交のひとつでもあることが、ひしひしと伝わってくる。私どもとドイツでは敗戦の受け止め方が違うのではないかとさえ感ぜざるを得ない。

彼らは、敗戦時の記載に戦勝国の意見が直載、赤裸々に、「ドイツ国民を壊滅させることも、あるいはまたドイツ民族を奴隷とすることも連盟国の目的とするところではない」<sup>2)</sup>と記される。この一文の内外に与える影響力は大きい。敗戦とはそういうものであるという峻厳さをまず彼らは子孫に包み隠さず告げようとするのである。私の学校教育をふりかえって、習った歴史教科書にはこれほど強烈な文を見なかったように記憶する。

世界エリアの中における日本の歴史という観点から、歴史教科書の制作、歴史教育の根本的見直しが図れないものか。

提言を書き終えて、付け加えることがある。恐らく戦争を非戦闘員として経験した人々はこの奇麗事の一文中に不服と憤りを感じるであろう。引揚者たちは徒歩で長い距離を飢えと寒さと疲労に打ちのめされながら歩きとおし、途中で倒れ行く人の土饅頭の累々と続くなかをそれでも先を急ぎながら歩いた記憶がそう簡単にこの関門を通過させはしない。女性は生きてたどり着いた舞鶴の港で、真っ先にすることは待ち受ける医師団に取り囲まれることであった。この二重の屈辱の記憶が蘇る。引揚者の一団は黙して語らぬ。戦争とはそのようなものである。第一次大戦で、敗戦となったドイツは戦勝国によって国境が人為的に引かれ、国家が事務的に書類上作られてゆく。引かれた国境線によって取り残されたドイツ民族は少数民族として、強制的にその国に所属した。そのことが惹起する実態は多くの今日のニュースが報じるとおりであり、東ヨーロッパが解体して生じた惨状である。テロリズムを恐れながら、テロリズムの発生源を歴史に訊ね、正さなければならぬことは正さねばならない。歴史教育が Politik であるという意味はこういうことである。

### Ⅲ. 歴史教科書から具体例を引く——アビトゥーアにみる

日本人が最終的に必ず問いを発する事柄、試験問題がどのようになされるのかという問いに答える意味においても、第10章に挿入されたアビトゥーア（卒業試験）の模擬問題が効率よく答えを提供するであろう。この章は『第10章 ヨーロッパにおける国家社会主義の独裁政治』にあたり、ドイツの歴史教育の最も重要課題のひとつであり、また、対外的にはアピール性の高い箇所でもある。

#### 問題

1939年4月14日アメリカ大統領ルーズベルトは来るべき大戦争を警告して、平和的な紛争解決を要求した。1939年4月28日、アドルフ・ヒトラーは特別召集国会で2時間半にわたる演説を行い、アメリカ大統領の要求に答えた。

「私はもう一度確認してよいと思う。私は第一に戦争を引き起こしたことは無かった。第二に私は年来、戦争熱への嫌悪をとりわけ表明してきた。第三に私には、何の目的のためにそもそも戦争を遂行しようとするのか解らないことである。もしこれについて知らせようとしてくれるならば、私はルーズベルト大統領！あなたに感謝したいくらいである。[……]」

私はドイツの混沌を克服した。そして、秩序を再建した。国民経済の全分野での生産を途方もなく高めた。極度の努力を払いつつ、我々に不足している多くの原料についてその代替物を作らせた。新たな発明に道を開いた。交通網を発達させて交流を豊かにし、多くの道路を建設した。私は運河を掘らせるだけでなく、巨大な新たな工場を稼働させた。そしてこれらと並んで、社会共同体の発展、国民の教育と文化の目標に貢献することにも尽力した。

私がやって成功したことは、我々全ての心痛の種であった7千万人の失業者たちを残すところなく、再び有用な生産活動に取り組ませ、[……]ドイツの商業に再び血を通わせ、そして運輸交通を最高度に力強く促進したことである。もうひとつの世界による脅威を予防するために、私はドイツ国民を政治的に統一しただけでなく、軍事的にも軍備を整えた。さらには私は、かつて448条に見られたように、そのもっとも際立った極めて卑劣な有害性を有し、国民と人々に不快な要求を突きつけていた、あの条約を一条ずつ、排除していった。私は1919年我々から奪われた地域を帝国に復帰させて、我々から引き裂かれて、深い不運に沈んでいた何百万のドイツ人を再び故郷に引き入れて、ドイツ生活圏の千年の歴史的統一を再構築した。そして大統領！これら全てを苦勞して私は成し遂げたのです。それも血を流すことなくして。それすなわち、自国民に、あるいは他国民に戦争の苦しみを与えることなしにである。

私はこれらを、大統領！21年前には国民のなかのまだ無名の一労働者であり、兵士であった私自身の力で成し遂げた。それゆえに、私は、個人について、正当に且つ正義に則って求められる至高なることを為しえたあの人間たちの一人として、歴史のなかに私が数えいられるべきことを要求することができる。

大統領！あなたはこれに反してやすやすとやって来られた。あなたは幸運にも、あなたの国土で一平方キロメートルあたり15人やそこいらを養わなければならないだけである。あなたには世界の無限の大地の富が意のままになる。あなたは国土の広さと土地の肥沃さでもって、全ての個々のアメリカ人に、ドイツでなし得る10倍の生活物資を確保せしめることができる。自然はあなたにいずれにしてもこれを許している。あなたの国の住人の数は、大ドイツの住人の数よりも三分の一そこいら多しただけにもかかわらず、あなたは15倍以上の生活地理空間が意のままになるのだ。<sup>3)</sup>

以上が問題文であるが、その後次に次の課題が示され、さらにその後この課題への取組み方、解のための解説が続く。引用が大幅となるが、具体例ほど示唆に富むものはないので原書のまま、引用を続ける。

1. 1938-39年の国際政治状況下に行われたこの演説を整理して、ヒトラーがいかなる意図を追求しているかを示しなさい。
2. ヒトラーがこの演説で使っている修辞とプロパガンダの方法を示しなさい。またそれらを文中から説明しなさい。
3. ヒトラーは帝国議会を前に演説を行っているのであるが、ヒトラーの首相指名後、帝国議会の意味がどのように変化したかを明らかにしなさい。
4. a) ヒトラーの主張する経済的成果についてあなたの考えを述べなさい。  
b) ヒトラーがベルサイユの戦後秩序をどのように除去したかを、二つの例をあげて示しなさい。
5. ヒトラーがこの演説で、いわゆる〈生活圏〉に関して意味していることを明らかにしなさい。そしてこの概念が、国家社会主義のイデオロギーと実践の場におかれるとき、どのような意味を発揮するか記述しなさい。
6. 1933年以降の歳月にあつて、何ゆえに、ドイツ人の多数の支持が国家社会主義体制に向けられたのかを説明しなさい。

\*前もつての注意：作業を始める前に、資料をコピーしなさい。それから、その資料を読む際に重要箇所に下線を引くとよい。

**課題 1** 「整理しなさい」という課題では、自分自身の知識に基づき、ヒトラーのこの演説を、それが述べられた当時の状況におき、それらを通して分かりやすく説明することが求められている。その際の外交政治状況の基礎的資料としては、1939年までの外交政治に関する――第10章の2.1節に、特に459-463頁に記述されている。

**課題 2** 「挙げなさい」という課題では、歴史的事態を自分自身の言葉で、明快に、且つ引

用によってそれを証明しながら、表現しさえすればよい。その際、資料を読むときに特に修辭に特徴があるところには波線を引きなさい。そうすると内容に該当する通常の下線を引いた部分との区別が一目で分かるでしょう。ナチスのプロパガンダについては442頁の記述を参照しなさい。

**課題 3** 「解明しなさい」という課題では、広範囲な補足情報に示された内容より、実情をよく理解して、そして例証を挙げながら、自分自身の知識で証明することが求められている。これら補足情報を入手するには、最善としては「国会」の見出し語で調べることが良いでしょう。そうすると次の頁へと進むはずで。即ち、第10章の1.1節424頁には、1933-34年の独裁体制確立の途上で、国会の無力化についての概観が記述されています。資料4と図版5(432頁)は、その記述の理解を深めることでしょう。

**課題 4 a)** 「あなたの判断を示しなさい」という課題では、正当性と妥当性についてそれぞれの主張が検定されます。それぞれの見解が提示され、且つ根拠づけられなければならない。まず最初に、時代の基準が必ず考慮されなければならない。更には、――亘〈断定〉から離れて――しかも個人的な価値観をも修復再生されなければならない。その際には、寛容を保持し、多元性を容認しつつ、自分自身の価値基準を明らかにし、それを根拠付けなければならない。――NS 経済体制についての記述のためには、第10章1.5節及び2.1節に多くの資料(450頁以下、資料12-14)があり、さまざまな社会的グループの経済状態について(軍備拡張については464頁、資料23)がある。更には4ヵ年計画(460頁)について、ドイツ国民の経済的状況(446頁以下)について記述するための資料がある。

以下、各課題について、上記の如く丁寧な指導が付記されているが、引用はここで終わることにする。

引用例から得られる一結論は「記述式の試験」であることである。高等学校の卒業試験がまるで大学の文系の卒業論文に踵を接する近さにある。基準が教科書内からの資料で済ませても良いというところになれば、この手法は大学における卒業論文にそのまま通用する。つまり高校で既に大学に進学に必要な下準備が十分なされているのがドイツの高等学校教育であるということである。この前提があれば、確かに大学における教養課程はある程度省略可能であろう。

#### A. 引用例の検討

##### 1) 記述式試験の意義を英語共通語時代から見なおす：

ドイツの場合、英語が日常生活に浸透する昨今において、高等学校の卒業試験が記述式に拠るものであることの意義は大きいことが予想される。母国語の衰退は英語をどの程度までドイツ語に翻訳し、教育の現場で使用するかにかかわるであろうが、卒業試験において母国語で考え、母国語で自己の考えを記述するという作業は日常生活で英語が頻繁に使用され、二重言語



生活がひとつの常態となったとき、知的言語としての母語の防波堤としての役割を果たすであろう。私どもは古い植民地国において高等教育が支配国の言語で行われたため、新聞でさえ支配国の言語で書かれたものを読む事態を現実に経験している。つまり、知識階級において母国語離れが急速に促進するという事態である。この自家撞着をいかに克服するかは現在を生きる人々に任せられた事柄であり、後世の人々はその流れのなかで、ひとつの帰結を生むであろう。文学作品の受容という局面ではすでに、母国語に翻訳したくもすでに母国語の衰退甚だしく適する言葉がないという悲嘆の声を聞いて久しい。日本は後進国ではないという楽観論を気休めの薬と聴くにしろ、では、文学作品のマーケットはどうなるのか。恐らく出版界は慈善事業ではないはず、売れないものは出版しない。衰退の危惧は一応考慮し、教育政策を深刻に根底から考えてみる必要もあろう。文明という問題は言語と密着していることを考慮して、賢明なる判断と決断が必要となるであろう。固有の文化が誇りを培い、互いに他者の文化を尊重することにより、調和させる智慧を人類は獲得する。世界平和という言葉は単なる謳い文句ではなく、足元の日常生活をすでに洗っている。例えばセム族の「絶滅」という事態を検討すると、実はユダヤ人殲滅という語に代えて、この絶滅という言葉が今日走り始めていることに意識は向かう。絶滅とはまさに生物学的、つまり動植物までを含む概念であることに注意して欲しい。翻訳をしながら気にかかった点である。NHKの第二次大戦中、強制収容所におけるユダヤ人選別に当たった人物の裁判、いわゆるハンブルク裁判のドキュメンタリー放送のなかで使用された言葉はこの「絶滅」であった。確かに、ヒトラーが行ったことは実に人間であることを否定した動植物並の扱いであったことには相違なく、種族間に序列を設けた結果<sup>4)</sup>のもたらす当然の帰結であり、「絶滅」の言葉にふさわしいものであった。この言葉が仮に若者、視聴者が理解しないということを考慮しての選択ならば、これは衰退現象の一步といえないだろうか。

## 2) 資料を多用することによる歴史教育と意見形成

冒頭に記したように、歴史事件の編年体記述を暗記する教育でも、また因果関係を可能な限り客観的に明示し、理解させる教育でもなく、かといって執筆者一人の見解・価値判断によるのでもない教育を実施しようとする努力でもある。自国の歴史を動かした事実の資料が試験問題に取り上げられ、その背後を問うという考えさせる教育がなされている。たとえそれが国の否定的な側面を露呈するものであれ、敢然と向き合う力を求めているのであり、自国の青年への信頼が無くてはなせぬことであるが、直視し、歴史を創造してゆく国民としての自覚を求めている。国家建設あるいはヨーロッパの、世界の一員としての国造りの行く手に何を見ているかといえ、民主主義体制国家が一方に偏ることなく安全に維持することであろう。国の概念がヨーロッパの共同体という新概念に遭遇することにより、このための成員を育成するという新しい課題に直面している。日本はヨーロッパから遠い国であるが、彼らの模索は我々にも我々の国の将来像を模索する上で参考となるであろう。

話が全般に亘ってしまったが、具体例に戻ろう。先の模擬試験に関連すれば、これに先立って教科書では学習者は資料21と22を読むことになっている。

資料21では「1933年2月3日、陸軍及び海軍指揮官とのヒトラー会談に関する記録文書(『リープマン記録文書』)」が提示される。模擬試験は1939年時の事項であるが、ヒトラーは既に[1. 内政]においては、「青年の鍛錬とあらゆる手段を使つての防衛意志の強化。国家と国民への反逆は死刑。最峻厳な権威ある国家指導部。民主主義という癌の除去」<sup>5)</sup>という腹案を語り、[3. 経済]では、「ドイツ国民の生活圏は小さすぎる」ゆえに「移住政策」を強行することが語られ、さらに[4. 国防軍の建設]では政治権力の奪取(政権奪取に関しては会談の冒頭で既に述べられ、しかも〈全権限を!〉と強調譜付きの註まで記されている)、一般兵役義務の再施行が語られ、これらが目指すところは「東方での生活圏の征服、そしてその容赦ないゲルマン化」であると説明される。[2. 外交]はヴェルサイユ条約などのことである。

然るに資料22とはどのような内容であるか。「1933年5月17日のアドルフ・ヒトラーの国会演説での公式平和誓言」<sup>6)</sup>である。資料22は註にある通り、『ドイツ政治の記録』第一巻からの引用掲載である。「我々の国家社会主義は我々に世界観として根本的に義務付けられる原則である。我々は無限の愛と斉一でもって我々自身の国民性に愛着を覚えるがゆえに、我々は他の諸国民の国家権利をもこの信条から敬意をはらい、そして衷心より彼らと共に平和と友好のうちに生きてゆきたい。それゆえにこそ我々は〈ゲルマン化〉という考えを知らない。ポーランド人やフランス人がドイツ人となり得ると考えたかもしれぬ過去百年の人々の精神的心性は我々には全くのところまさしく無縁であり、我々は熱烈にあらゆる過去回帰の試みに対し、反対する。[……]。

ドイツは今やいつだって攻撃兵器を放棄する用意ができています。たとえ他の世界がそれを放棄しないにしてもである。ドイツはあらゆる厳粛な不可侵条約に賛成する用意ができています。なぜならば、ドイツは攻撃を考えているのではなく、その安全を考えているからである」と、一通りの読み方ではすまない発言となっている。が、いまはその解釈ではなく、資料21と22の比較が重要である。政治のもつ両面を資料として高校生に提示しているのである。

これに対する設問は次の通りである。本稿への引用は部分的であり、答えを出すには不十分であるが、設問の配慮のほどは推測できる。

資料21：1. ヒトラーの外交政治の目標を挙げなさい。

2. この計画における国内の政治的条件を概略しなさい。

資料22：1. ヒトラーは平和政治に向けて、どの程度に事実として、且つまじめに論拠を述べているか議論しなさい。

2. 資料21と22における目的を比較しなさい。

この上記設問を見ても分かるとおおり、卒業試験の課題がプロパガンダと修辞を列挙し、その

意味するところを分析せよという問題であったことと重ね合わせてみれば、歴史教育の目的が自己の意見形成であり、判断力の養成にあることが明確になる。

「考える教育」ということばだけでは教育はなされないのであって、じつにこうした用意周到な教科書作りによって初めてなしうることである。我々は高校生といえども社会人予備員として扱っている実態を認識するに至る。

#### IV. 意見形成及び判断力養成に関して

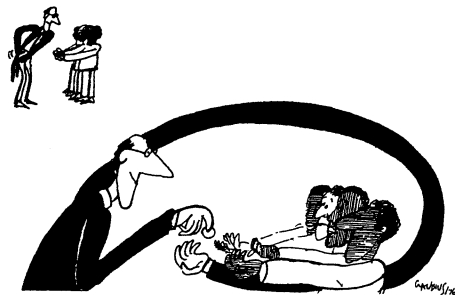
資料の多用を上述したが、その占める割合はいかがであるか、簡単な数値を提示したい。単純に資料に割かれた分量と教科書編者による記述の頁数を計算すると以下の通りだが、その際、多くの図版、写真・地図グラフ等がふんだんに採用されているが、これらは編者の記述として計算した。「その他」として、各章の扉の図や、各章間に設けられた年表、要約・補足説明的頁は引用資料外としてこれに含ませた。おおよその関係が把握できることが目的であるので、引用資料が1頁の半分を占めれば、0.5頁、3分の1程度であれば、0.3頁としたが、内訳は凡そ編者による記述部分395頁、資料の頁195頁、「その他」61頁、Lexikon 14頁、Register 5頁であった。実際は、編者の記述内に表、図版を含ませていることを勘案すれば、恐らく執筆者の記述実部分と資料とは実に半々の量であるといえる。

そこで、「考える教育」と題して、意見形成・判断力養成を目標と掲げるのであるが、そこに横たわる言葉・活字の本来的に有する拘束性（思考の方向を指示する潜在力）をいかに排除して行くかという努力が問われる。批判する能力と自己の意見形成を主体的に獲得させるための配慮は図版、写真、表、地図、グラフ、グラフを読みこなす訓練によって実現される。その例をひとつ挙げておく。

この図版<sup>7)</sup>には次の表題と設問が付されている。

##### \* 発展途上国援助の戯画・1978年

- この漫画家が発展途上国援助の戯画で批判している内容を言いなさい。
- 図版を出発点として発展途上国援助、発展途上国政策及び途上国共同作業の構想が抱える問題点を整理しなさい。



いつ、いかなる形であれ言語のもつ特性、ある意味の限定性、すなわち言葉の誤解による誤謬を少なくするか、この間隙を埋める手段を必要とするが、いまここではいったん言語から解放し、自己のなかに存在する感性を通して内側から修得した言語を導き出させて意味ある文に組み立てる能力の開発が目指されていると考えられる。「理解」の内なる経路を考慮した、教科書作りであるといえる。考える力を養うために我々はどのような方途があり、そのために実

に多くのものを既に所有しているかを改めて気づかせ、実際に活用することの有効性を示唆している。

## V. ま と め

歴史教育を大上段にかざすと、かなり大層なこととなるが、まず教育目標をしっかりと定め、そのためにはなにが役立つかを検討し、いかに提供し、いかに目標に向けて緻密に仕上げて行くかという教科書作りの姿勢がありありと浮かび上がってくる。同時に民主主義社会を建設し、維持してゆこうとする意志と情熱は、時にうんざりするほどの重複と資料の畳重を全くいとわぬ粘り強さとなって発現する。時には辟易しながらの翻訳作業であるが、国民性とは一方の脚を必ずや教育の上に置き、積み上げ、練り上げられてゆくものに他ならないとの結論に辿りつかせる。彼らが政治家の国家緊急の折になした判断とメッセージを選び抜き、東西ドイツ統一が無血のうちに運ばれるには史上にどういう人物が存在し、その人物の人間性そのものにより、大惨事が回避できたかを知らしめる情熱は、自国の歴史を学ばせ、若者たちに明日もまた国を維持してゆく能力を得させ、よしんばもう一度国家再建の試練に立つことがあろうとこの歴史教科書で学びえたことが彼らを助けるであろうと信じるその強烈さをまざまざと知る（筆者は割愛しなければならなかったアデナウアーの政治生命を賭けたドイツの独立、東西分断もやむなしの判断の秘密文書の掲載や再統合の際のコール／ゲンシャーとゴルヴァチョフのトップ会談による無血革命の事情の資料の掲載を念頭に置いている）。冷静でかつ徹底的に事実を知るという作業が問題解決につながることを親が子に伝えるごとき愛情で貫徹される。中部ヨーロッパに位置し、敗戦と分裂国家を生き抜いてきた英知は政治教育を辞さない。同じ敗戦国の日本人として、反省することの多い。我々日本人が外交の上でこの歴史教科書の底に流れる祖国愛、一国であることの意味を情緒としてではなく、明日も国であるために決意して臨む、歯を食いしばる姿を学ぶべきではないかと思う。

## Zusammenfassung :

In der methodischen, didaktischen Hinsicht kann es uns viele hinweisungsvolle Aspekten für unsere japanische Geschichte-erziehung und -ausbildung in der höheren Schule, das Lehrbuch der Geschichte zu analysieren, dessen Titel >Kursbuch Geschichte - Berlin/Brandenburg< heißt. Einfach können wir dadurch drei große Unterschiede zwischen der japanischen und der deutschen Erziehung der Geschichte nennen.

Erstens haben wir, Japaner, normalerweise traditionell zwei geteilte Geschichte gelernt; Die eine heißt die japanische Geschichte, d.h. NIHONSHI und die andere die Welt-Geschichte, d.h. SEKAISHI. Aber im Detuschland und anderen europäischen Ländern gibt es keine Trennung zwischen der eigenen Geschichte und der sogenannten Welt-Geschichte.

Zweitens steht das deutsche Lehrbuch der Geschichte aus vielen verschiedenen Materialien, z.B. Argumentationen, Fotos, verschiedenen Bildern und Karikaturen,

betreffenden Verfassungen u.s.w., damit die Lernenden selbstständige, kritische, politische Meinung bilden und sich äußern können. Die neue integrierte und reformierte BRD würde die Akzeptanz der selbstständigen Staat sowie der neuen europäischen gemeinschaftlichen Welt als autonomes Mitglied fördern.

Drittens kann das schriftliche Abitur als Wellebrecher funktionieren, wenn auch die enorme Welle des sogenannten doppelsprachigen Alltagslebens überschlagen könnte. Weil sich die AbiturientInnen ihre eigene Geschichte und die zukünftige Weltbild überlegt haben und überlegen müssen, dabei benutzen sie ihre Muttersprache.

Bei uns, Japanern könnte der dritte Punkt auf die zukünftige japanische Erziehungsgesellschaft hinweisen.

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

参考資料：

### Kursbuch Geschichte – Berlin/Brandenburg：

Didaktische Beratung： Marlies Friedrich, Potsdam

Das Lehrwerk wurde erarbeitet von：

Rudolf Berg M.A., Prof. Dr. Gerhard Brunn, Andreas Dilger, Prof. Dr. Ute Frevert, Prof. Dr. Hilke Günther-Arndt, Prof. Dr. Ernst Hinrichs, Dr. Hans-Georg Hofacker, Dr. Dirk Hoffmann, Dr. Wolfgang Jäger, Dr. Ulrich Maneval, Prof. Dr. Jochen Martin, Dr. Waltraud Müller-Ruch, Prof. Dr. Hans-Christoph Schröder, Prof. Dr. Hannah Vollrath, Elisabeth Zwölfer, Prof. Nobert Zwölfer, unter Mitarbeit der Verlagsredaktion

関係資料

『ドイツの政治教育』－成熟した民主社会への課題－ 近藤孝弘著 岩波書店 2005年10月

註：

- 1) アンジェイ・ガルリツキ (Andrzej Garlicki)：ポーランドの高校歴史教科書【現代史】／世界の教科書シリーズ 12, アンジェイ・ガルリツキ著, 吉岡 潤・田口雅弘・渡辺克義 監訳, 明石書店, 2005年7月, 16頁
- 2) Kursbuch Geschichte (歴史の時刻表)：516頁「資料2」として引用された〈ポツダム協定〉の冒頭部分
- 3) Kursbuch Geschichte：490頁
- 4) Kursbuch Geschichte：426頁, 456-461頁, 471頁等々：要約すると, 国家社会主義のプロパガンダ。人間の能力は, 動物が遺伝学的に固定された種であるように, 遺伝学上固定された種族に分類され, 優劣が定まっている。最上の素質は〈ゲルマン民族〉であり, 〈人類をより高度に発展〉させる目的のために, 他民族を支配するためにこそ地上に存在し, 〈アリア〉なる支配民族として定められている。一方, スラヴ民族は〈アリア民族〉に従属すべき民族として, ドイツ民族の生活圏内に存在している人種であると位置づける。〈アリア条項〉, また例えば1935年9月15日発布の「ドイツ人の血統並びにドイツ人の名誉の守護のための法律」(資料19内掲載)など, 現実の政策となって「合法的」に犯罪が犯されていったことが, 赤裸々に記述される。
- 5) Kursbuch Geschichte：463頁 資料21
- 6) Kursbuch Geschichte：463頁及び次頁 資料22
- 7) Kursbuch Geschichte：629頁 図版4